

「高校に入ったら彼氏を作って、ダブルデートをしよう」

こんな約束を、あたしとマユは交わしていた。

中学の3年間は彼氏よりも親友を作りたくて、恋愛というものを経験しなかった。けれど、まあ、歳相応に「カレシ」という響きには憧れてたし？ それなりに、それなり……に、妄想もしてた。大親友のマユも同じ気持ちだったんだろう。

マユとあたしは別々の高校に進学することになった。この約束は中学卒業の夜、謝恩会……と称した公園での馬鹿騒ぎ中に、「二人ふたり」でこっそり交わしたものだ。

「高校へ行ったら、お互い彼氏作る。彼とおそろいの指輪つけて、名前で呼び合ったりして。で、ミキの彼氏とあたしの彼氏連れて、4人でデートするの。遊園地に行ったり、海に行ったり。ね、楽しそうじゃない？」

マユはやたら素直な性格で、うら若き乙女の妄想を恥ずかしげもなく口にする。けれどそのおかげで、あたしはダブルデートの光景をかなり、いや、もう体験したといってもいいぐらいに想像することができた。

それはあまりにもまぶしすぎる光景だった。あたしにもマユにも、かっこよくて優しくてあったかい、頼れる彼氏がついている。4人は楽しげに歩いている……。考えるだけでも幸せすぎて、脳みそが溶けそうだった。

決めた。カレシを作るぞ。絶対に。

コメントの追加 [APP1]: 出だしですので、主語（あたしとマユは）を先頭に持ってきたほうが読みやすいと感じます。

コメントの追加 [SO2]: 以降、本文中にて数字が表記ゆれしています。

コメントの追加 [SO3]: 「」はセリフに使用し、強調の場合は《》を使用するようにはいかがでしょうか。

コメントの追加 [SO4]: この場合の「二人」は「2人」と数字表記で統一せず、「ふたり」としてはどうでしょうか？

コメントの追加 [SO5]: 「あ」※シソーラスをご確認ください

コメントの追加 [SO6]: ここで改行を挟むことで、ミキの憧憬を強調できるかと思います！

コメントの追加 [SO7]: 文字数次第ではありますが、もう少し具体的に妄想を展開してもいいのではと思います。（体験したくらいに、とまで言っているの！）